

間質性肺疾患の 栄養治療

特集にあたって

間質性肺疾患 (ILD) は、肺の間質に炎症や線維化をきたす疾患群であり、特発性肺線維症 (IPF) をはじめとした特発性間質性肺炎や、膠原病関連ILD、過敏性肺炎など原因や病態が多様な疾患を含む概念です。これらに共通する特徴として、疾患の進行にともない、慢性的な呼吸機能低下、呼吸困難、食欲不振、身体活動量の低下などをきたすことがあり、それにとまなう低栄養やサルコペニアの併発がしばしばみられます。

栄養障害はさまざまな呼吸器疾患において、呼吸困難の増強、QOLの低下や生命予後の悪化と関連することが明らかになりつつあります。ILD患者における栄養管理は標準化はなされておらず、医療現場では各施設の医師や管理栄養士の経験や個別対応に頼らざるを得ないのが現状です。

本特集では、ILDにおける栄養療法の現状と課題を整理し、ILD患者の基礎病態から栄養状態の評価法、具体的な栄養療法介入の実践例、さらに多職種連携による包括的なアプローチまで、多角的な視点から各分野のエキスパートに解説をいただきました。呼吸器内科医、管理栄養士、リハビリテーション科医師など、それぞれの立場からの知見を共有することで、臨床に直結する実践的な内容を提供することをめざしています。本特集が、難治性疾患であるILD患者に対する栄養管理の質を高め、患者のQOLを改善する一助となれば幸いです。

東邦大学医療センター大森病院 呼吸器内科
坂本 晋